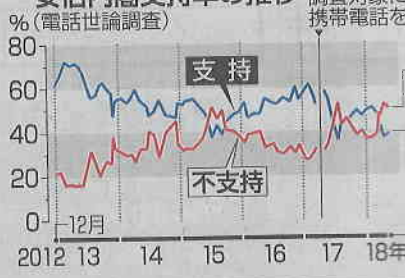
安倍内閣支持率の推移



約2年半ぶりとなる日中

次期自民党総裁にふさわしい人

※敬称略

石破氏は2位（26・2%）で、首相は3位（9・1%）だった。

男女別で見ると、男性では石破氏26・6%、首相25・5%、小泉氏24・0%と、ほぼ三つどもえの戦い。女性は小泉氏29・2%、石破氏22・9%、首相17・1%の順だった。

内閣不支持層では、30%を超えた石破氏（35・8%）と、小泉氏（31・3%）に対し、首相はわずか0・1%だった。

経済政策に期待できる 16・5（8・3）
外交に期待できる 16・1（15・2）
ほかに適当な人がいない 42・0（45・0）
その他 0・2（1・7）
分からない・無回答 0・4（0・7）

問3 （問1で「支持しない」と答えた人に聞く）支持しない最も大きな理由をお答えください。
首相が信頼できない 48・6（58・4）

自民党 立憲民主党 国民民主党 公明党 共産党 日本維新の会 自由党 希望の党 社民党 その他の政党 支持する政党 分からない・

問5 学校 獣医学部新設に 相の秘書官た 加計学園関係者 会ったことを 認し、安倍首相か の報告を否定 は、首相の関与 の説明に納得で きませんか。
納得できる
納得できない
分からない・
問6 この問 は獣医学部新設 を前提に進めら ますが、政府は と説明してい 続きは適切だっ 思いませんか。
適切だった
適切だったと
分からない・
問7 政府は 法案」で、高 残業代支払い

懸命に子の成長支えた父母

カウンターテナー歌手 米良 美一

生まれて間もない、今にも壊れそうな乳飲み子と、そんな息子に付きっきりで看病するいとしい妻とを故郷に置いて、山を相手に生きてきた武骨な私の父親は、わが子のために必要な多額の医療費と家族の生計を支えるため、大阪の街へと出稼ぎに行きました。

昭和46年のことです。

日本では昭和30年代から、都市部の発展がめざましい変貌の過程にあり、近代的な建造物の建設ラッシュや幾多のインフラ整備のまっただ中。肉体労働の担い手をたくさん必要としていたことは容易に想像できます。

山師をなりわいとして生きてきた父が身を置いていた林業は、天の気に左右されることが日常で、厳しい大自然を相手に休業を余儀なくされることも頻繁でした。特に梅雨時や台風到来のシーズンには、家計が逼迫するほど、苦しい側面がありました。

40年代に入ると、石油に次ぐ輸入量で海外から安い木材が流入しました。外材の増加によって価格の低迷が続き、日本の林業は大きな打撃を受け、衰退の一途をたどります。

そんな折、健康状態にひどく問題を抱えて生まれてきた一人息子の私のため、父は長らく慣れ親しんできた大好きな山を下りていったのでした。

一方で、奥深い山村に生まれ育った母は独身時代、川のはるか上流にあるダムや発電所に常勤していました。そこで日々業務にあたっておられた宮崎県企業局の方々の、食事のお世話などの人を支える役割に従事していました。

今ではすっかり年老いた父と母。募る青春の思い出は、山々の深い緑葉の景色とともに、この先もずっと懐旧の念として二人のうちに輝き続けることでしょう。

時は流れて…赤江まつばら支援学校での生活にもすっかり慣れ親しんでいた私は、ホームシックに胸がうずいてやまなかった入学のころとは打って変わって、心の温かい友や先生方のお支えのおかげで、精神も肉体もずっとたくましくなっていました。

小学校入学からの約5年間が、唯一、骨折を経験することなく平穏無事に、子どもらしく過ごせたひとときなのです。

やがて、そんな私にも巣立ちの話が持ち上がりました。そうです、元気いっぱいの子どもたちが学ぶ地元の学校への転校です。

通常ならば当たり前のことですが、家族と一緒に生活できて、好きな食べ物を好きな時に食べ、ワガママが言えて、規則に縛られない自由な生活…。それは憧れの暮らしでした。

支援学校の毎日は集団生活で、ルールの厳しい籠の鳥ではありましたが、とても大切に守っていただいたことも周知の事実。外の世界へ飛び立つことに不安や心配が、正直ゼロではありません。

しかし、そこは「少年よ、大志を抱け」（笑）。いよいよ新たな門出のとき！

赤江まつばら支援学校で4年生の1学期を無事修めると、一度は入学を断念した故郷の西都市立三財小学校（現・三財小中学校）への転入が許可されたのです。

さあ、夏休みが明けたら新しい学校生活のスタートです！

♪ともだち百人できるかな♪

夢と希望と好奇心が胸いっぱいに、果てなく膨れ上がっていました。

めら・よしかず 1971年、西都市生まれ。カウンターテナー歌手。映画「もののけ姫」主題歌を歌い、一躍時の人に。東京都在住。